

# 轉 教

て ん ぎ よ う

2018 8 Aug

平成 30 年 8 月 1 日発行  
第 19 卷第 8 号 通算 222 号  
編集兼発行人 山本 久男  
発行所 宗教法人 佛立本旨講 妙應寺  
〒113-0021  
東京都文京区本駒込 6-6-11  
☎ 03-5319-3490  
FAX 03-5319-3491



(Web 版)

信のとびら

## 我が身の罪障消滅

ざいしょうしょうめつ

水谷随歎

安政四年に佛立講を開講なさつた開導聖人は、翌、安政五年には大津に、翌年には大阪へと弘通教線を拡げられました。大阪には、北区玉江橋南詰の秦新蔵宅を仮親会場として弘通の伸展が計られました。京

都にいらした開導聖人が大阪に出向かれる機会は限られるので、細部にわたる御指導は手紙によって行われていました。その際に秦氏に送られた書簡が「松風余韻」と題して一冊の書物にまとめられています。

その中に、開導聖人が病氣療養中のお弟子さんへのお見舞いに送られた手紙が残されています。なかなか思うように快方に向かわないお弟子さんを氣遣い、「このような難しい病に突き当たった時は、初心に戻り、我が身は罪障の深い大悪人と観念してお題目にとりすがります。私自身も、なかなか罪障を消滅出来ないと思った時は、懺悔をし、はじめてこの妙法に出会った時の心に還り、お供水をいただき、痛いところに塗ったり飲んだりしますよ」と仰せになっています。

我々佛立本旨講教講は、日尚上人のご教導のおかげで、開導聖人の教え通りの日常信行を教わってきました。慣れるにしたがって初心を忘れてしまいがちです。そうならないように気を付けましょう。懺悔↓改良↓ご利益という流れに沿って動くこと、病人があれば皆で協力して応援祈願をする。或いは、先祖のおかげに感謝して塔婆を建立することがご利益に直結することを教わってきました。また、それらの心得が単に「信心のやり方や方法」、すなわち習慣のようになってしま

うとご利益は現れなくなってしまう  
うことがあります。そこで、同じお  
供水をいただくにも、軽しめずあな  
どらず、重く敬い信じていただけ  
ば、不思議な御守護を感得出来ま  
よ、と念を押して教えてくださつて  
おります。

さらに、我が身罪障消滅のために  
懺悔せよと言われても何をどう懺  
悔すればよいか分からない人のた  
めに、三つの罪障消滅の基本を教え  
てくださっています。

一つ目は、御本尊に向かい奉ると  
きに、生きていらっしやる仏の御前

にいますと思われない罪障。

二つ目は、御法に出会えたことを  
この上ない幸せと思われない罪障。

三つ目は、この妙法の結構さを人  
にも勧めようと思う心の起こらな  
い罪障。

佛立本旨講は、「どんな問題もご  
宝前にご祈願をかけて乗り越えま  
す」と御講の度に唱和させて頂くよ  
うに、開導聖人の教えのままの信心  
を守ろうとしています。謙虚な心で  
我が身の罪障消滅を祈る信心を風  
化させないように気を配り、次世代  
の人々に伝えてゆきましょう。

# 8月のご奉公のすすめ

今月号から形式を変更しました。8月のご奉公は下欄の予定表をご参照下さい。今月は、9月のご奉公の種まきをしましょう。

## 参詣将引

8月26日には日晨上人祥月御命日法要が奉修されます。ご弘通に挺身ていしんなされた上人のお徳に感謝して、教区、班内、家族に声をかけ報恩のためのお寺参詣をすすめますよう。

## 随喜轉教

日晨上人祥月御命日を迎える今月の祈願のポイントは法要を

無事奉修させて頂くことです。

また、夏休みやお盆休みは、家族の絆を深める絶好のチャンスです。家族に感謝し、御法様のおかげ信者仲間のありがたさを話し合ひましょう。

## 9月へ勧め・奨め・進め

一、竜の口御法難記念  
五時間口唱会

9月2日(日)午前9時半から午後2時半まで本堂にて五時

## 8月の寺内行事予定表

1日(7日) 開講本旨再興祈願

朝参詣週間

1日(水) 開講本旨再興祈願総講

午前10時半

4日(土) 運営会議 午前9時半

高祖会奉修本部会議

午前10時半

9日(木) 日晨上人祥月御命日法

要奉修費、参加人数、

お塔婆申込締切

11日(土) 連合幹事会

午前9時半

// 後続者育成係連絡会

午前10時半

13日(月) 高祖大士御命日総講

午前10時半

間口唱会が開催されます。日蓮聖人のご恩に感謝して班内家族に喜びを伝え、五時間間口唱会への参詣を勧めましょう。

## 二、防災の月

「備えあれば患いなし」と言われます。信者は積極的に防災に取り組み、その上で「火盗病不慮の諸難を免れて如説信行弘通成就」の祈願を立てるよう教えて頂いています。班内をしつかりお助行をして防災対策の確認をしましょう。

例えば、御宝前の固定。ご本尊の緊急お供袋<sup>トモククラ</sup>。家族同士の安全確認伝言ダイヤル1771の活

用。家具の転倒防止。落下防止。年配者の誘導。等々、是非家族で話し合ってください。

## 三、秋季彼岸総回向

9月23日(日) 秋の彼岸総回向が本堂で10時から、六角堂では12時半から勤まります。ご先祖への報恩の気持ちで家族そろってお参詣させて頂きましよう。ご回向・お塔婆の申込みは9月2日(日)までに寺務所にお納め下さい。  
六角堂ゆきバスの申し込みも9月2日(日)までです。今月の内から将引ご奉公させて頂きましよう。

17日(金) 開導聖人御命日総講 午前10時半

19日(日) 開講本旨再興祈願口唱会 午前9時半

// くんげ会・蓮華会合同御講 午前10時半

25日(土) 日晨上人祥月御命日法要準備ご奉公午前9時

// 門祖聖人御命日総講 午前10時半

// 正副教区長会 午後12時半

一地区…1階ホール

二地区…和室

三地区…2階ホール

26日(日) 日晨上人祥月御命日法要 午前10時半

# 開導聖人のご苦勞を偲ぶ開導会

6月17

梅雨の合間、晴天に恵まれた日曜日、開導会が奉修されました。特別企画として常講歎読滅罪抄が誕生した明治時代の背景などを解説した短編ビデオが上映されました。

第二座を奉修下さった日在導師から、ご法門前に、次のようなご訓示をいただきました。



「いつも御講席で唱和している常講歎読滅罪抄は、もう再び信者を迷わす混乱が起きないよう、信者間の人間関係に注意を促すために制定された御指南です。

御題目が貴いのでそれを唱える信者も貴いのです。法と人は一体ですから、御題目を唱える信者を謗れば御題目を謗ることになる、その点を忘れず異体同心を、という内容です。

御講席で常講歎読滅罪抄を唱和するたびにこの内容を思い出しましょう」

## 平成30年6月の寺内行事報告

- 1日～7日 開講本旨再興祈願朝参詣週間
- 1日(金) 開講本旨再興祈願総講を午前10時半より奉修
- 2日(土) 運営会議を午前9時半から開催
- 3日(日) 開講本旨再興祈願口唱会を午前9時半より奉修
- 〃 若い人の口唱会を午前10時半より奉修
- 5日(火) 開導会奉修費・お花料・御供米料の奉納・参詣予定者数申込締切
- 9日(土) 連合幹事会を午前9時半から開催

「開導聖人と常講歎読  
滅罪抄」のあらすじ

幕末期に新たに佛立講を開かれた開導聖人。明治14年11月には高祖大士六百回遠諱をつとめ多数の参詣を得るまでに発展しました。しかし、翌年2月、宥清寺に盗賊が入ったのです。こ



貧乏寺だった宥清寺が発展して  
泥棒が入るまでに立派になったという証拠ですよ

このビデオはホームページでご覧ください。  
<http://myooji.com> > 日常信行 > ビデオ集

の頃から、本能寺の日応があからさまに佛立講の批判をしはじめました。そのため、多くの信者が動揺し、退転する者も続出しました。

しかし、真実を確かめもせずいいかげんな話に付和雷同して退転していったご信者さんの誤った判断を、三つの要点にまとめてご注意下さったのが常講歎読滅罪抄です。

これが常講歎読滅罪抄誕生の経緯です。

「人法一箇というを忘れて人を捨つること」など三点については、「轉教」平成28年8月号の「ご奉公のこころ」を、ご参照下さい。

// 後続者育成連絡会を午前10時半から開催

13日(水) 高祖大士御命日総講を午前10時半より奉修

16日(土) 開導会全体会議・準備

ご奉公を午前9時半から開催

17日(日) 開導会奉修

第一座 午前10時より奉修

第二座 午前11時半より奉修

24日(日) 団参・聞泉寺(三島)

開導会 担当第三地区

25日(月) 門祖聖人御命日総講を午前10時半より奉修

// 正副教区長会を午後12時半から開催

# 聞泉寺団参と松の木物語

6月  
24

三島聞泉寺開導会へ団参が行

われました。担当の第三地区に

加え多くの応援参詣者があり、

総勢51名で御参詣をさせて頂き

ました。帰路の車中では恒例の

ゲーム大会もあり、信者仲間

楽しい時

間を共有

できました

た。次回

は11月11

日(日)に静

岡聞信寺

高祖会の

団参を予

定しております。

「松の木は残った」

聞泉寺正面の大きな松の木。

実は、病気の為、地元の植木屋

さんも匙<sup>さし</sup>を投げ出したほど衰弱

をしていました。これを聞かれ

た安藤照志師がお題目と愛情を

いっぱい注いで手入れをした結

果、ご覧のよう

に見事に復活し

ました。

この松の木は、

聞泉寺の先住益

田日記上人が大

事にしていらっ

んでいます。

また、最近、団参のほかに、

男子信徒のお助行などで交流が

深まっています。たとえ松の木

一本でも、喜びが伝わればご弘

通ご奉公です。





## 夏期参詣始まる！

初日に、杉並教区（第三地区長）井上京子さんより、  
決意表明がありました



今日からいよいよ夏期参詣が始まりました。今年度の目標は御参詣です。

ちようどお子さんもお孫さんも夏休みに入りますので、一緒にお参詣してから遊びに出かけるとか、家族の方のお仕事が休みの日に、その方の時間に合わせて供連れ参詣させて頂くと

か、いろいろな工夫をして一人でも多くの方をお寺に近づけて差し上げられるようにご奉公をさせて頂きましょう。

4月から文化会が発足していろいろな楽しい企画がもりだくさんです。どなたでも参加できますのでお友達も

誘ってご一緒に楽しいひと時を過ごし、開かれたお寺を見て頂いてはいかがでしょう？

今年は猛暑と予



想されていますが、体調を整えて、また妙應寺修繕工事中ですので足元にお気を付けて元気に御参詣ください。

そして「いつもより沢山御参詣が出来た！」、とか「孫と一緒ににお寺に来ることが出来た！うれしい」とか、そういう気持ちを色とりどりの朝顔に書いて、お寺中を喜びの声で一杯にさせて頂きましょう。

# 日晨上人のお写真が皆さんをお出迎え

8月26日(日)に日晨上人祥月御命日法要が奉修されます。

これに先立ち、本堂入り口に、プロジェクトによるほぼ等身



大のお写真等を投影しておられます。これは来年の日尚上人御十七回忌の法要を報恩の思いでご奉

公させていただきますよう、という趣旨で企画されました。

懐かしい日尚上人そして先師上人の映像やお写真など、適宜

## 信徒講習会にロールプレイを取り入れて

今年度の信徒講習会のテーマは「なぜ信心をするのか」その理由を事例をもとに構成された問答形式で学びます。受講者がおばあちゃんとお孫さんの役割分担(ロールプレイ)をして行いました。その後、お講席のよ

うに、皆さんが体験談を語り合いました。



各エピソードは先月から轉教15ページの「こどもたちの会」で順次掲載されています。

内容を更新して本堂へのお参詣の皆さんをお迎えします。投影される内容は、日尚上人を中心に、その日、その時のご奉公のテーマに沿って構成されます。お楽しみに。



## お寺参詣の功德

久野信友師

「私は、朝参詣をすすめられて初めてお寺の本堂に入った時の不思議な感覚を今でも鮮明に覚えていますが」と云う言葉をよく耳にいたしますが、それはお寺の本堂では毎日多くの方のお看經が絶えない荘厳な場所だからです。

又「私は此の度信心を決定して妙法の信者としてお寺に名を寄せて頂いたのですから、朝参



詣して仏様の教え（御法門）を聴聞させて頂き世間の人々の手本となる生き方を身に付ける事が大切と考え朝参詣を続けています」と云う方がいらつしやいます。

又、三大会とかお総講に合わせたり、日曜とか祝日に都合をつけて共連れ参詣なさる方も目立って参りました。この様に自分一人の参詣から他の人を将引するご奉公を、菩薩行と申します。ある方にどの様にして将引されたのか伺いました所、「朝参詣をして御法門を聴聞し

ている内に自分一人だけの信心ではだめと云う事に気が付いたからです」又或る方は、「御法門で三世にわたる因果の話を聴聞して子供や孫の将来の幸せは、私がお寺参詣をすすめるかどうかにかかっている事がわかったからです」と云う返事が返って来ました。

只今のお二人のお話は、自分が頂いた信心の喜びを他の人にも感得してほしいと云う信者として最も大切な化他のご奉公であります。

仏様はお経文に「化くおのれの功くわ己おのれにき帰かへす」と仰せでございます。

御教歌

朝起きは なる程妙な得がある  
してみぬ人はそれもわからず

■私のよろこび  
てんじゆうきようじゆ  
転重軽受のおはからい

栃木教区 Kさん

今日は、大難を小難に、小難を無難に終わらせて頂いたご利用談をご披露させていただきます。

3月3日に車を運転して出かけたときのことですが、時速60キロの片側2車線の国道から時速40キロの片側1車線の市道に入って暫く走ったところで、急にハンドルを取られました。スピードが出ていなかったのので立て直して走り続けましたが、2〜300メートル走ったところでゴムの燃えるような臭いがし

たので、車を止めてタイヤを見たら、左の前輪がぺちゃんこになっており、タイヤの側面からバースト（破裂<sup>はれつ</sup>）していました。

同じ左の後輪にも傷が入っており、いつバーストしてもおかしくない状態でした。その後タイヤをスペアと交換して無事に帰ってきました。

振り返ってみると国道を走っているときは時速80キロ以上でしたので、そこでバーストしていたら大変な事故になっていたかもしれません。

また前回、車を使用したのは、2日前の1日の御総講にお参詣したときで、そのときは高速道路を使用しており、次に使用するのは3日後の水戸教区のお助行で、そのときも高速道路を使用するため、高速道路で起きていたら命も危<sup>あや</sup>うい事故になっていたと思います。

47年間運転をしてきました<sup>が</sup>、このような体験は初めてでした。御奉公中に起きなかったことがなによりでしたが、大難を小難で終わらせて頂き、まさに転重軽受のお計らいをありがとうございましたと御宝前に感謝し、御礼の御看経を上げさせていただきます。

■私のよろこび

## いつも見守っていてくださる

渋谷・港教区 Sさん

数年前から複数の仕事をするようになり、毎日が、さらに早くすぎるようになりました。その中、仕事を通してご信心のありがたさを感じることが多くあります。

ある時は、仕事の関係で、梅の季節ではない時期に、梅の甘露煮や梅そのものがどうにも見つからず、とても困っていました

佛立本旨講の次世代を担う若い方たちが中心となり、全地区合同で御講を奉修させていただきます。

た。その中、ちょうどお寺のおそうじ当番があり、何とかお参詣をしてご奉公させて頂き、お寺を出た直後に、梅の生産者さんから連絡が来ました。突然のことです。驚きつつも、甘露煮のことを話すと、自分のところにある梅をわけて下さる、とのことでした。

この時、お寺参詣やおそうじ

のご奉公のおかげを感じ、ありがたい気持ちでいっぱいになりました。

他にも、毎月の御祈願やお塔婆を、日々ご法様にお願ひさせて頂いたことにより、職場の環境がよくなったり、雰囲気や和やかになったりと、ご信心の大切さを感じました。

これからもお願ひをしながら、すすむ気持ちを忘れずにすごしたいです。

## 夏の恒例、くんげ会・蓮華会の合同御講

佛立本旨講の次世代を担う

華会員のみなさんの交流、ならびに親睦を深め、信行ご奉公の糧とするために開催されます。

10時半から、本堂で御看経



参加申し込みは  
八月十日までに寺務所へ

のあと、2階ホールでバター作りを楽しみます。パンにはさんで御供養としていただきますよ。

## 連合の家族の信心増進を願って

多摩教区 Cさん

五月の第二地区の後続者育成  
助行は、5月16日（水）多摩連  
合のNさん席でした。10名の参  
加応援をいただきました。

Nさんは、いつも家族を大切  
にされお寺の大きな行事には、  
必ず家族そろって参詣なさいま  
す。家族への信心増進、信行相  
続と絶え間なく努力して着実に  
前進されています。最近の事で  
言えば、ご長男が第一志望の就  
職を成就されました。ご長女は  
結婚して戸主となり、ご主人と  
共にますます信心増進されてい  
ます。Nさんご夫妻も仲睦まし  
く理想とするご家族です。家族

中で御法様のお陰ですと感謝し  
喜んでおられます。

このように多摩連合ではNさ  
んご一家をはじめ将来を期待さ  
れる若い家族の方々がたくさん  
いらつしやいます。今後、後続  
者育成ご奉公にどう取り組み頑  
張っていくかは大きな課題です  
が、信心の喜びを若い方々によ  
り多く伝え確実に受け継いでい  
ただけるよう、御法様のお力添  
えはもとより、れんげ会や後続  
者育成係、第二地区の皆さんの  
応援をいただき、連合で力を合  
わせご奉公させていただきたい  
と思っております。



都教区 Sさんの  
娘さんの孫 Rくん

6月10日に孫のR（娘・Sの  
長男）の初参りをさせて頂きま  
した。今年3月15日生まれて元  
気に成長するよう、本堂で無事  
養育成長のお看経をあげて頂き  
ました。



# ★こどもたちの会★

## 「なぜ信心をやるかの理由②」

<p>⑥ 出でてー 解<sup>か</sup>決<sup>け</sup>しないので、声<sup>こゑ</sup>にでも泣<sup>な</sup>いても何<sup>なに</sup>も</p> <p>「ありがとうございます。」</p> <p>「と、お前<sup>まへ</sup>向き<sup>むき</sup>に考<sup>かんが</sup>えよう<sup>よう</sup>と、覚<sup>かく</sup>悟<sup>ご</sup>を決<sup>き</sup>めて、ご宝<sup>たから</sup>前<sup>まへ</sup>にご祈<sup>いの</sup>願<sup>ねが</sup>したのよ。</p>	<p>① もちろん!! いいわよ!!</p> <p>「おばあちゃん、他<sup>ほか</sup>の<sup>たの</sup>ご信<sup>しん</sup>者<sup>じや</sup>さん<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>話<sup>わ</sup>も教<sup>おし</sup>えて。」</p>
<p>⑦ そうしたら どうなったの?</p> <p>「一週<sup>いっしゅう</sup>間<sup>かん</sup>に一回<sup>いっぺん</sup>、病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>と赤<sup>あか</sup>ちゃん<sup>ちゃん</sup>の成<sup>せい</sup>長<sup>ちやう</sup>を<sup>を</sup>検<sup>けん</sup>査<sup>さ</sup>しな<sup>し</sup>が<sup>が</sup>ら<sup>ら</sup>待<sup>まち</sup>たのよ。」</p>	<p>② やっ<sup>や</sup>と<sup>と</sup>赤<sup>あか</sup>ちゃん<sup>ちゃん</sup>が<sup>が</sup>て<sup>て</sup>き<sup>き</sup>た<sup>た</sup>と、母<sup>はは</sup>心<sup>こゝろ</sup>つ<sup>つ</sup>たら、子<sup>こ</sup>宮<sup>くわう</sup>ガ<sup>が</sup>ン<sup>ん</sup>が<sup>が</sup>見<sup>み</sup>つ<sup>つ</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>方<sup>かた</sup>が<sup>が</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>ね...</p> <p>「え??! ガ<sup>が</sup>ン<sup>ん</sup>?! それ<sup>それ</sup>は<sup>は</sup>大<sup>だい</sup>変<sup>へん</sup>!!</p>
<p>南<sup>なん</sup>〇<sup>〇</sup>～<sup>～</sup>経<sup>けい</sup>!!</p> <p>⑧ 全<sup>ぜん</sup>快<sup>かい</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こゝろ</sup>援<sup>えん</sup>祈<sup>いの</sup>願<sup>ねが</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>てー</p> <p>「ご信<sup>しん</sup>者<sup>じや</sup>さん<sup>さん</sup>も、心<sup>こゝろ</sup>死<sup>し</sup>にな<sup>な</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>を<sup>を</sup>治<sup>な</sup>す<sup>す</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こゝろ</sup>援<sup>えん</sup>祈<sup>いの</sup>願<sup>ねが</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>てー</p>	<p>③ 赤<sup>あか</sup>ちゃん<sup>ちゃん</sup>は<sup>は</sup>産<sup>う</sup>み<sup>ま</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>し<sup>し</sup>ー</p> <p>置<sup>お</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>し<sup>し</sup>ー</p> <p>「でも<sup>でも</sup>病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>も<sup>も</sup>放<sup>はな</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>置<sup>お</sup>け<sup>け</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>し<sup>し</sup>ー</p>
<p>⑨ みんな<sup>みんな</sup>が<sup>が</sup>心<sup>こゝろ</sup>援<sup>えん</sup>祈<sup>いの</sup>願<sup>ねが</sup>のお<sup>お</sup>陰<sup>かげ</sup>で<sup>で</sup>、赤<sup>あか</sup>ちゃん<sup>ちゃん</sup>も<sup>も</sup>無<sup>む</sup>事<sup>じ</sup>産<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>れた<sup>た</sup>し、病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>も<sup>も</sup>治<sup>な</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>ん<sup>ん</sup>だ<sup>だ</sup>よ。」</p> <p>「みんな<sup>みんな</sup>が<sup>が</sup>心<sup>こゝろ</sup>援<sup>えん</sup>祈<sup>いの</sup>願<sup>ねが</sup>してく<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>ると、心<sup>こゝろ</sup>強<sup>かえ</sup>い<sup>い</sup>ね!!</p>	<p>④ お医<sup>い</sup>者<sup>しや</sup>さん<sup>さん</sup>も...</p> <p>「...と<sup>と</sup>言<sup>い</sup>わ<sup>わ</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>い、出<sup>しゅ</sup>産<sup>さん</sup>を<sup>を</sup>待<sup>まち</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>が<sup>が</sup>進<sup>すす</sup>ま<sup>ま</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>保<sup>ほ</sup>障<sup>じやう</sup>は<sup>は</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>せ<sup>せ</sup>ん。」</p>
<p>⑩ それ<sup>それ</sup>は<sup>は</sup>良<sup>よ</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>た<sup>た</sup>!!</p> <p>「ご宝<sup>たから</sup>前<sup>まへ</sup>にご祈<sup>いの</sup>願<sup>ねが</sup>した<sup>た</sup>ね!!</p> <p>「そう<sup>そう</sup>だ<sup>だ</sup>ね!! あり<sup>あり</sup>が<sup>が</sup>た<sup>た</sup>い<sup>い</sup>ね。」</p>	<p>⑤ それ<sup>それ</sup>で<sup>で</sup> どう<sup>どう</sup>し<sup>し</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>?</p> <p>「か<sup>か</sup>ん<sup>ん</sup>が<sup>が</sup>考<sup>かんが</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>答<sup>こた</sup>え<sup>え</sup>な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>て<sup>て</sup>出<sup>で</sup>せ<sup>せ</sup>な<sup>な</sup>い<sup>い</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>ね。泣<sup>な</sup>い<sup>い</sup>て<sup>て</sup>暮<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>た<sup>た</sup>よ...</p>

